

## なんだ・かんだ

### ◆ 被災地を訪問して ◆

8月19日の日曜日に家族で、陸前高田・大船渡へ日帰りで行って参りました。東北のバス会社が企画しているバスツアーで、現地ボランティアの方にガイドをしていただけるツアーでした。

昨年来何度が被災地に行く話はありませんでしたが、その都度予定が合わず、行くのは初めてでした。今回は学校が夏休みでもあったので、子供に災害の状況を見せなければという思いもあり日帰りという強行軍でしたが、被災地を訪問してまいりました。

一ノ関駅を朝出発し、陸前高田、大船渡を回り、到着は盛岡というツアーです。一ノ関の駅を出て、田園風景の中を1時間半ほどバスに揺られていくと、プレハブで作られた陸前高田の市役所に到着。この市役所は震災前は海沿いにあったのですが、被災後に山間に入った場所に建てられました。日曜日でしたが、市役所は開いていて、玄関には各地から寄せられた応援のメッセージや千羽鶴等が飾られていました。

市役所を出発すると、眼下に陸前高田の街が見えてきました。一見今まで見てきたような田園風景に見えたのですが、そこは、震災前は陸前高田の市内で、JR東日本の大船渡線が走る住宅や商店街が立ち並んでいた市街地だったところでした。今は草が生えているので、遠目には田んぼか畑に見えるのですが、近くへ行くと、一面草の中に家の基礎だけ残った場所だとか、流されずに残った鉄筋コンクリートの大きな建物が、そのまま窓がなく、室内にがれきを残したまま立っていたり、そこかしこに処分できないがれきの山が残った状況でした。有名な「奇跡の1本松」が河口付近に立ち、河口から見える川には、橋が2本流され橋脚だけが残されたままたずみ、いくつかの堤防の決壊跡がそのまま残り、復興はまだまだという感じでした。

東日本大震災では、地震の規模はマグニチュード9.0という大変大きなものでした。陸前高田では震度は測れなかったようですが、隣接する大船渡や一ノ関では6弱ということで、同市の発表による災害状況によれば、震度6弱とされています。この地震が引き起こした津波によって市中心部は市庁舎もろとも壊滅し、市の全世帯中の7割以上が被害を受けました。それは、三陸沖の入り組んだリアス海岸の地形から、陸前高田は、北から南へ湾が口を開け、震源地(津波の発生地から)真っすぐ津波を受け入れるような地形であったためということです。

震災前の人口は、24,246人。今年8月11日付で震災で亡くなった方は、1,555人、さらに行方不明者は223人ということです。この内の誰が地震の起きる前にこの様な事態を想像したでしょう。人間一生1回限りです。いつ何が起こるかわかりません。そこで、毎日へらへらとおもしろ楽しく生きるか。大変だけれども与えられた人生(自分で選んだ人生)を悔いなく一生懸命に生きるか。出来れば一生懸命生きて、それが、やりがいがあり面白く楽しい人生であればと思います。



本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方に付きましては、その旨ご一報頂きたいと思っております。次回からの発送を中止させていただきます。N

株式会社チキリ  
静岡県駿東郡清水町卸団地 73  
Tel 055-971-9610 Fax 055-973-1534

E-mail gen@chikiri.com URL http://www.chikiri.com/

### 残暑お見舞い申し上げます

立秋を過ぎ、そして今月二十三日は二十四節気の「処暑」。暑さが収まる頃という意味ですが、暦とおりになるのは北海道のみ。その他の地域ではいやになるほど暑い日が続きます。そして、少なくとも今月いっぱい、厳しい暑さが続きそうです。

今月の十八日の土曜日に対外的には会社を休みとして、社内研修を行いました。内容は今更ながらの「ビジネススマナー研修」です。ビジネススマナーがなぜ大切か、そしてお辞儀の仕方から名刺の交換、電話応対まで新人社員研修のような内容です。四月に入社した新入社員から定年をして継続雇用の社員まで全員で受講しました。今更ということもありましたが、受けてみると改めて今まで当たり前のことができていなかったことを気づかされました。「マナーの心とは、相手を主体として考えた、行動や言葉」。この一言に尽きます。この研修により少しでも当社のお客様への対応が良くなることを願っています。

暑い日まだまだ続きそうです。皆様におかれましては、体調管理、特に熱中症にはくれぐれもお気を付けて、この異常な暑さを乗り切ってください。

代表取締役 服部 敏一郎

### 退職のご挨拶 “建設部部长 中野 充”

この度8月31日をもちまして退職いたします。在任中は公私にわたり温かいご指導、ご支援を賜りましたこと、心から感謝し厚くお礼申し上げます。

昨年3月に手術を致しました持病の腰痛がここにきて再発し業務遂行も辛くなり思い切って療養に専念することにいたしました。期の途中での退職で多くの方々にご迷惑をお掛けいたしますが、後任者がつつがなく引き継いでくれますので心強く安心しております。後任者には私同様のご厚情をお願い申し上げます。

昭和42年に入社し人生の半分以上の45年間の会社人生でした。入社当時、会社は沼津市内にあり店の入口にワイヤロープが所狭しと並んでいました。当時は船具課、塗料課、鋼索課、機工課の4部門があり、私は機工課に配属され東名高速へのガードケーブル納入が初仕事でした。ガードレールや交通安全施設の営業で当時は高度成長時で仕事も相当忙しかったことを記憶しています。

昭和46年に現在の清水町卸団地に本社事務所が移転。この頃は仕入担当として全社の取扱商品を覚え、価格折衝の勉強をしました。

その後、組織も変わり営業部の一員として塗料、ワイヤロープなどを取扱いしながら、お客様である製造業の現場に出入りし自動化、省力化装置の提案をするようになりました。

昭和57年には服部製作所の設立で工場長としてワイヤハーネスの製造も行いました。

平成に入り建設部に所属し土木からリフォームまで多岐に渡る営業を行い、特に遮熱塗料は平成9年から他社に先駆けて取扱いお客様に省エネ対策をご提案させていただきました。

本当に色々な部門を経験させて貰い、高度成長期、バブル期、低成長時代と、景気の荒波の中で充実した仕事人生だったと思います。

入社日数が日一日とカウントダウンされていくに従ってもっと感傷的になるのかと思っておりましたが逆にサバサバとした気分でも自分でも不思議な気持ちです。また、退社通知をした皆様から温かいお見舞いの言葉や励ましの言葉を頂き、改めて多くの皆様にお世話になっていたことを再認識でき感謝でいっぱいです。

この不束者を長い間可愛がっていただき誠に有難うございました。末筆ながら皆様のご健康と益々のご繁栄をお祈り申し上げます。退職のご挨拶とさせていただきます。

